

令和3年6月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和3年6月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

2019年9月にオープンした八戸市長根屋内スケート場「YSアリーナ八戸」の知名度向上を図るため、八戸市では同施設の紹介動画（2種類）を制作しました。

市内を拠点とするプロスポーツチームの選手らが出演し、施設の魅力を発信していますので、ぜひご覧ください。

◆動画はこちらをご覧ください（ユーチューブ「八戸市広報チャンネル」）

【施設PR動画】 <https://youtu.be/4cYaDt38K1M>

【施設紹介動画】 <https://youtu.be/3jnNudIDWxU>

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

【行政】

記事	概要
(1)	<p>はちのへ創業・事業承継サポートセンター 相談者数過去最多</p> <p>八戸市が開設する「はちのへ創業・事業承継サポートセンター（8サポ）」で2020年度に対応した創業や事業承継などに関する相談者数が、事業を開始した2016年度以来、最も多い計739人となった。創業の新規相談者数も152人で過去最多を更新。新型コロナウイルスの影響で地域経済が冷え込む中、創業意欲が維持されている状況がうかがえた。8サポは八戸圏域連携中枢都市圏の事業でもあり、圏域経済の活性化にもつながっている。</p>
(2)	<p>八戸市民病院救命救急センター 県内唯一 体制充実度「最高」</p> <p>八戸市立市民病院の救命救急センターは、厚生労働省の2020年の「充実段階評価」で最高ランクのS評価に認定された。充実段階評価は、全国に設置されている救命救急センターの機能強化や質の向上を促し、全国の救急医療体制のレベルアップを図る目的で1999年に導入されたもの。救急患者の受け入れ実績や設備の充実度に加え、救急救命士の育成や地元消防機関との連携に積極的に取り組むなど、総合力の高さが評価された。東北地方でS評価を受けたのは同病院を含め3病院のみで、青森県では唯一。</p>
(3)	<p>新型コロナワクチン接種後の副反応の相談 八戸市医師会と八戸薬剤師会など連携</p> <p>八戸市医師会と八戸薬剤師会などは、ワクチン接種後の副反応の相談に応じる新たな連携態勢を構築した。軽微な副反応については薬局の薬剤師が相談に応じ、症状が長引く場合や医師の診察が必要な場合はかかりつけ医や救急病院が対応する。医療機関と薬局とが連携して役割分担する全国的にも珍しい取り組みで、ワクチン接種における「八戸モデル」を構築し、医療機関に偏りがちな相談を分散させることで、医師が接種に集中できる環境づくりを図る。</p>
(4)	<p>都内で活躍するプロ社交ダンサー 増田大介さん 八戸大使に</p> <p>八戸市は、同市出身で東京都内で活躍するプロ社交ダンサーの増田大介さんを、八戸特派大使に委嘱した。増田さんは、八戸工大二高3年の時、兄が優勝したダンスの大会に感動し、ダンサーの道へ進んだ。卒業後は都内で練習を重ね、世界ショーダンス選手権ファイナリストとなるなど世界レベルの大会で活躍。今年3月には全日本セグエ選手権プロ・ラテンアメリカン部門で4連覇を果たした。都内にダンス教室を開設し、テレビ番組に出演するなど幅広い年齢層にダンスの魅力を伝えている。増田さんは、「ダンスを通じて八戸の良いところをアピールしていきたい」と意気込みを語った。</p>
(5)	<p>八戸市がブランド認証、開発支援へ サバ加工品幅広く募集</p> <p>八戸市は5月23日、3回目の市水産物ブランド戦略会議を開き、八戸港で水揚げされたサバ加工品のブランド認証制度と試作品製造支援事業の概要を発表した。ブランド認証では加工品の味や斬新性、衛生面などを同会議で審議し選定。認定証を交付し、市のホームページなどで周知を図る。有効期間は決定日から3年間で更新も可能とする。支援事業は水産加工業者や漁協などが対象で、製造費やアドバイザーへの謝礼などを助成する。金額は経費の半分（上限75万円）で、3件分を予定している。6月から試作品の公募を開始し、7月下旬に審議、12月までに補助金を交付する。また、10～12月に加工品のブランド認証の申請や審議、認定証交付を行う。</p>

【産業】

記事	概要
(6)	<p>陸奥湊駅前朝市オリジナル丼選手権 栗石さん1位</p> <p>2～3月にかけて行われた「陸奥湊駅前朝市オリジナル丼選手権」で、八戸市の団体職員栗石甲子さんの丼が1位に輝いた。同選手権は、市魚菜商業協同組合と陸奥湊駅通り地区まちづくり協議会などが主催。同市場で食材を購入して好みの丼を作り、Instagramに投稿するという企画で、全国から約50点の応募があった。盛り付けの見た目や「いいね」の数などで総合的に審査が行われた。栗石さんは、新鮮なマグロやサバ、ヒラメなど数種類の魚介類をご飯の上に少しずつ盛り付け、豪華な見た目とおいしそうな盛り付け方が高い評価を得た。</p>
(7)	<p>陸奥湊駅前再整備構想が浮上</p> <p>「八戸市民の台所」として親しまれてきた同市湊町のJR陸奥湊駅前地区で、八戸市営魚菜小売市場のリノベーションに合わせ、民間市場などの再整備構想が浮上している。かつて一帯は多くの人でにぎわっていたが、近年は集客力の低下が叫ばれて久しく、民間主体で推進する今回の構想は、これまで幾度の計画見直しを経験した地元にとって、再生を図るラストチャンスとなる。建物改修のみにとどまらず、商業機能の構築やテナント誘致、ソフト事業の充実が再興の鍵を握っている。本年度中に事業主体となるまちづくり会社を立ち上げ、早ければ2022年度中の事業着手を目指す。</p>
(8)	<p>八戸市営魚菜小売市場改築を受け陸奥湊に無料休憩所開設</p> <p>八戸市営魚菜小売市場の改修工事が5月下旬から始まったことを受け、陸奥湊駅通り地区まちづくり協議会は6月1日、JR陸奥湊駅前に無料休憩所を開設した。魚菜市場の改修期間中、店子は隣接する民間市場と旧青い森信用金庫を改修した仮店舗で営業を続けるが、食堂がなくなるため、魚菜市場の斜め向かいの空き店舗を借り受け、無料休憩所としたもの。改修後の魚菜市場で出店したい人などを対象に一部区画を貸し出す「チャレンジショップ」を行うことも検討中で、観光客や地域住民が一日を通して楽しく過ごせる場所を目指す。</p>
(9)	<p>青森銀行とみちのく銀行合併へ 総資産6兆円</p> <p>青森銀行とみちのく銀行は5月14日、合併に向けた経営統合協議入りで基本合意したと正式発表した。2022年4月に持ち株会社を設立し、システム統合の準備を進めて2024年4月をめどに合併。総資産6兆円規模の地銀グループが誕生する。統合すれば県内の貸出金シェアは7割を超えるため、2020年11月に施行された地方銀行の統合に独占禁止法を適用しない特例法が前提となる。適用されれば全国初となる見込み。両行は統合で将来にわたって金融インフラを維持するとともに、経営の合理化を進め、金融サービス強化につなげたい考え。新銀行の名称は未定で、本店は現みちのく銀行本店、主な本社機能は現青森銀行本店に置く。</p>

【地域】

記事	概要
(10)	<p>八戸花火大会 8月22日に開催</p> <p>八戸市の夏の風物詩・八戸花火大会を主催する大会委員会は、今年の大会を8月22日に開催する方針を決めた。昨年と同様、新型コロナウイルスの感染予防策として、会場の館鼻岸壁に入場できるのは招待客と有料観覧席の購入者に制限。打ち上げ発数は新型コロナの終息を願って5670（コロナゼロ）発を目指す。観覧客の上限は5千人とし、屋台などの出店は認めず、1時間程度で終了する。開催資金は、市内の企業や団体から協賛金を募るほか、クラウドファンディングを初めて活用し、全国から広く協力を得る方針。観覧チケットは7月ごろに販売予定。</p>

(11)	<p>今春アニメ “青森”いっぱい</p> <p>この春、青森県に関連するアニメが一齐に放送されている。男子新体操をテーマに描く「バクテン!!」は、青森山田高男子新体操部が監修した本格的な演技シーンが話題を集めている。元同部監督で、アニメの新体操監修を担当した荒川栄さん（八戸市出身）は、「練習の様子や選手の心情がリアルに描かれていて、関係者以外にも男子新体操のことが伝わる」とアピール。このほか、羅川真里茂さん（八戸市出身）が津軽三味線奏者の少年の成長を描く「ましろのおと」や、小山愛子さん（十和田市出身）の「舞妓さんちのまかないさん」などが放送され、注目されている。</p>
(12)	<p>八工大講師本波さん 親しみやすい教材の開発に力</p> <p>八戸工業大工学部で講師を務める本波洋さんは、プログラミング教育に活用できる教材の開発に取り組んでいる。この1年で完成させたのは、消毒液を自動噴射させるロボットや、垂直な壁を無線操縦で自由に移動させられるユニークなロボットの2種類で、柔軟な発想と専門知識を生かし、児童らの好奇心をくすぐる。教材に使用しているのは「マイクロビット」という子ども向けのマイクロコンピュータボードで、電子基板状にさまざまなセンサーなどが取り付けられており、マウス操作で簡単にプログラムを入力できるのが特徴。小学校でのプログラミングは必修化されたばかりで、難しそうという先入観を持たれることも多いが、親しみやすい教材の普及を目指している。</p>
(13)	<p>八戸高専新井准教授 教員顕彰の若手部門で分野別優秀賞受賞</p> <p>八戸高専マテリアル・バイオ工学コースの新井宏忠准教授が、2020年度の「国立高等専門学校教員顕彰」の若手部門（40歳以下、勤続5年以上）で分野別優秀賞を受賞した。国立高専機構が毎年、教育活動や生活指導、教育・研究を通じた社会への貢献など各分野で活躍した教職員を表彰しているもの。新井准教授は、神戸市の金属メーカーで働いていた経験を生かし、学生が社会に出た時に必要となる、コミュニケーション能力の育成などの道德教育に取り組んだ。</p>
(14)	<p>古川さん（八戸水高） 甲種危険物取扱者合格</p> <p>青森県立八戸水産高海洋生産科2年の古川豪一さん（深浦町出身）が、難関の甲種危険物取扱者試験に合格した。危険物取扱者は、消防法により一定量以上の危険物を扱う工場やガソリンスタンドへの配置が義務付けられている。県内高校生の甲種試験合格率はわずか1%にとどまる。古川さんは、寮生活を送りながら、漁師を目指して実家の漁業も熱心に手伝い、昨年9月に乙種を取得。今年4月に行われた甲種試験に合格し、努力が結実した。</p>
(15)	<p>八戸・三條目町内会長小関さん 震災時の取り組みを冊子に</p> <p>八戸市三條目町内会長の小関勉さんが、東日本大震災当時にJR八戸駅で帰宅困難者となった旅行者を地域住民らが協力して支援した経験をまとめた冊子を再刊した。冊子は2冊構成で、1冊目は当時支援に関わった住民や避難者の証言をまとめて2016年に発行。今回は2冊目として、震災から10年の節目に避難者が寄せたメッセージ、現在は社会人となった当時の小学生の手記などを追録した。冊子は50セットを制作し、希望者には印刷代500円（税込み）で販売する。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(16)	<p>八戸三社大祭 2年連続規模縮小</p> <p>八戸三社大祭運営委員会は5月11日、今年の三社大祭の神社行列や山車の合同運行を取りやめる方針を決めた。新型コロナウイルスの影響で、昨年に続き、各神社の例祭と祭典のみの規模縮小での開催となる。祭り関係者は、「感染防止のためやむを得ない」と一定の理解を示しながらも無念さをにじませた。発祥300年目だった昨年に続き2年連続で大幅な規模縮小を余儀なくされ、山車組の存続や参加者の確保といった課題は山積。「後進育成や伝統継承への影響は避けられない」と、祭り離れに危機感を募らせている。一方、今年は写真や動画をInstagramに投稿する「オンライン神輿渡御」を行って内外に発信していく新たな試みにも挑戦する。</p>
(17)	<p>はちのへ山車振興会 移動型山車制作へ</p> <p>八戸三社大祭の山車組で組織する「はちのへ山車振興会」は、イベント会場などへの移動が可能な組み立て式の山車の制作に着手する。移動型山車は、台座や装飾品のパーツなどを分割してトラックで運搬できるようにし、現地で組み立てられる構造が特徴。制作費用は約750万円を見込み、自己資金250万円のほか、地元の企業・団体から協賛を募り、クラウドファンディングでも200万円の調達を目指している。山車は約1年で完成予定で、新型コロナウイルスの収束後を見据え、八戸市内外のイベント会場で披露して三社大祭の魅力を発信し、観光誘客や地域活性化を目指す。</p>
(18)	<p>県南初の車いすバスケットチーム「八戸フープス」発足</p> <p>今春、青森県南地方では初の車いすバスケットボールチーム「Hachinohe HOOPS（八戸フープス）」が発足した。現在は八戸市などの障害者、健常者各6人、計12人が所属し、八戸福祉体育館を拠点とした週1日の練習では、3～4時間にわたって攻守の連係の確認や紅白戦などに汗を流している。当面の目標として2026年に県内で開催予定の全国障害者スポーツ大会参戦を掲げるほか、天皇杯東北予選などへも参戦予定。全国大会出場を目指し活動を続ける。</p>
(19)	<p>車いすバスケット国際審判員・小野さん 東京パラリンピックで笛を吹く日を心待ちに</p> <p>青森県立八戸第二養護学校教諭で、国内でも数人しか資格を持たない車いすバスケットボール国際審判員の小野裕樹さんが、8月24日に開幕する東京パラリンピックで審判を務める。約20年前、当時青森市内の養護学校教諭をしていた小野さんは、生徒の気持ちを理解するため自ら障害者スポーツの世界に飛び込み、市内の車いすバスケットのチームに選手として所属。障害者と一緒に汗を流す中で、車いすバスケットの活性化や知名度向上に貢献したいとの思いを強くした。やがて県内に車いすバスケットの審判資格を持つ人がいないことを知り、段階的に国内の資格を取得。その後、2017年に厳しい試験を突破し、国際審判員の資格を手にした。小野さんは、「プレーヤーでもある自身の経験を生かして、いつも通りのパフォーマンスをしたい」と笛を吹く日を心待ちにしている。</p>

ふるさと寄附金のご案内

「ふるさと寄附金」とは、市内外を問わず、「八戸を応援したい」という方々から広くご寄附をいただく制度です。これまで納めてもらっていた税を「ふるさと寄附金」に振り替えていただくことで、直接、寄附者の意向を八戸のまちづくりに反映することが可能となります。

- ◆ 寄附金の使いみちをお選びいただき、「震災復興基金」「奨学ゆめ基金」などの基金積立や、教育・福祉・環境などの各種事業に充てることができます。
- ◆ 寄附をされた金額のうち2,000円を超える分について、一定限度まで住民税の税額控除がうけられます。
- ◆ 法人・団体からの寄附も受付しています。法人の場合、地方公共団体に対する寄附金は全額が損金算入できます。
- ◆ 寄附をいただいた個人の方には、金額に応じて、八戸せんべい汁セットやいちご煮セット、サバ缶セット、南郷そば・つゆセットなどの特産品を進呈いたします。
- ◆ 総務大臣からの通知（平成29年4月1日付け総税市第28号）を踏まえ、平成29年7月から、八戸市内在住の方へのお礼の品の進呈を取りやめることとしております。

①10,000円以上 30,000円未満 ……特産品Aから1品（①のうち、10,000円～15,000円は金額に応じて1品）

②30,000円以上 50,000円未満 ……特産品A～Bから1品

③50,000円以上100,000円未満 ……特産品A～Cから1品

④100,000円以上 ……特産品A～Dから1品

詳しくは、八戸市ホームページ内「八戸市ふるさと寄附金について」をご覧ください。

お申込み方法

インターネット ⇒ふるさとチョイス (<https://www.furusato-tax.jp/city/product/02203>) または
楽天ふるさと納税 (<https://www.rakuten.co.jp/f022039-hachinohe/>) からお申込みください。

郵送・ファックス ⇒「ふるさと寄附金申込書」に必要事項を記入して、八戸市広報統計課へ送付してください。
「ふるさと寄附金申込書」は郵送でお届けしますので、八戸市広報統計課までご連絡ください。
申込書は八戸市ホームページからもダウンロードできます。
※担当部署が住民税課から広報統計課に変わりました。

< 宛先 > 〒031-8686

青森県八戸市内丸1-1-1 八戸市 広報統計課 ふるさと寄附金担当

TEL : 0178-43-2319 / FAX : 0178-47-1485 / Email : furusatotax@city.hachinohe.lg.jp

八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っております。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いいたします。また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお立ち寄りください。

八戸市東京事務所 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

TEL : 03-3261-8973 / FAX : 03-3239-6723 / Email : tokyo@city.hachinohe.lg.jp

所長 松橋大輔 主幹 川村幸男 事務員 浜井章代